令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　福井県　）

１．基本情報

研究指定校名	敦賀市立粟野中学校

○これまでの研究指定等の状況

―

○学級数

２６学級（特別支援学級４を含む）

○児童生徒数

６７３名

○URL

awa-cyu@edu.ton21.ne.jp

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	自分を大切にし、 多様な価値観や考え方を認め合い、 他者と共生する人権教育の在り方

○調査研究のテーマを設定した目的

本校生徒のアンケートにおいて、自己有用感や自己肯定感を実感できていないと答えた生徒が１５%いる。また、「自分や他人を大切にしている」と答えた生徒の割合は、９５%以上であるのに、実生活では心ない言葉により相手を傷つけ、多様な価値観や考え方を認めない言動が見受けられることがある。

このような実態を踏まえ、本校で人権教育を推進していくにあたり、次の３つのことを目標に取り組んでいきたいと考える。

・人権について正しく理解し、自分を大切にし、人の心を思いやって行動できる生徒の育成
・身近な差別に気づき、一人一人を大切にできる集団の育成

・基本的人権について常に考え、あらゆる差別に立ち向かい、仲間と共に伸びる集団の育成

具体的には、各教科での取組、縦割り活動等での協働活動、人権標語の作成、体験活動や講師を招いての講演会等の取組により、人権教育の推進を図る。また、指導者である教職員が範を示すことができるよう、人権に対する理解をさらに深め、指導力向上を図るための研修の機会を設ける。さらに、保護者や地域に対して学校の人権教育の取組を積極的に発信し、家庭や地域において人権についてさらに理解と認識を深めていけるよう取り組む。

〇調査研究の概要

「他の人とともによりよく生きようとする態度」、「規範等を尊重し義務や責任を果たす態度」、「人権問題を解決しようとする行動力」を、生徒が身に付けられるようにしていきたい。

そのため、「授業での取組」、「人権意識、協働意識を高める活動」、「教職員の指導力向上」、「家庭・地域を含めた取組」を柱として、「自分を大切にし、多様な価値観や考え方を認め合い、他者と共生する人権教育」の推進を図る。

〇指定理由

敦賀市では、令和３年４月に策定した第２期敦賀市教育振興基本計画において、「社会の変化に応じた教育活動を行うための教職員の資質及び指導力の向上」を施策として掲げ、「『人道の港』敦賀としての人権教育を推進するため、教職員の国際的視野の拡大と人権意識の向上を図る」と定めて、未来をつくる子どもたちを直接指導する教職員の人権意識の向上に努めている。

敦賀市立粟野中学校は、「自ら考え、主体的に取り組む生徒の育成」の研究推進を目指している。生徒数約７００名の大規模校でありながら、「生徒会を中心とした縦割り活動」、「各学級での人権宣言（人権週間の取組）」、「地域教材の活用（人道の港敦賀ムゼウム）」、「同和教育の訪問授業」など様々な活動に取り組んでいる。重点項目である「障害者」では、講演会を行い、親子道徳を計画している。

多岐にわたる実践を行っている人権教育の推進は、県下でも先進的な取組である。この研究成果を広めることにより、福井県における人権教育の推進に寄与することが期待できる。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	〇
③ 高齢者	〇
④ 障害者	◎
⑤ 同和問題	〇
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	〇
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	〇
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

①自己有用感や自己肯定感を高め、自他を尊重する授業の展開
仮説：自分のよさや相手のよさを知り、「自分が認められている」、「役に立っている」ことに気づく活動を展開することで、自己有用感や自己肯定感が高まり、自他を尊重する気持ちや態度を養うことができるだろう。

②人権意識、協働意識を高める活動の工夫
仮説：ゲストティーチャーを講師に招き、人権に関する講演を開催することや、仲間と協働して探究的な活動や体験をすること等を通して、人権意識や協働意識を高め、生きた知識や能を身に付けることができるだろう。

③教職員の指導力向上
仮説：教職員が人権に対する理解をさらに深め、自らが範を示すことで、生徒の人

権意識を向上させる一助となるだろう。

④家庭・地域における人権意識の向上
仮説：保護者や地域の方に人権に関する授業を公開することや、親子で人権に関する講演会に参加すること等を通して、人権に関する理解と認識を深めることができれば、家庭・地域における人権意識が高まるだろう。

＊県教育委員会としての取組
敦賀市教育委員会と連携し、授業研究や研究会に継続的に関わり、指導助言を行う。県庁内の障がい福祉課とも情報交換を図りながら「障がい者」に関する情報提供や外部機関との接続を支援する。

〇実施方法

①自己有用感や自己肯定感を高め、自他を尊重する授業の展開
＜教科＞
〇各教科の特性を生かしながら科学的・合理的な見方・考え方の育成を図った。（全学年）
・【社会】歴史　さまざまな身分と暮らし「差別された人々」
新政府の成立「身分制度の廃止」
広がる社会運動と男子普通選挙の実現
部落解放運動（全国水平社）
公民　基本的人権と個人の尊重
子供の人権　平等権　新しい人権　等
・【国語】「さんちき」多面的な見方
「オオカミを見る目」多面的な見方　等
・【英語】「My brother in Hawaii」国際理解　等
・【美術】「画家５人の自画像」人権侵害が生き方に与える影響　等
・【家庭】「世界のこどもと家庭生活」教育受ける権利　等
・【保健体育】「多様な性のあり方」　等

＜道徳＞
〇思いやりと協働を大切にし、偏見や差別を許さない心の育成に努めた。（全学年）
「命の授業」、「ユニバーサルマナーセミナー」では障がい者の立場からの思いやりのあり方、「同和問題をテーマにした訪問授業」、「弁護士によるいじめ予防教室」、「インターネットによる人権侵害をテーマにした訪問授業」では級友との意見交換を通して差別を許さない心の育成を図った。
〇エゴグラムを用いることにより、自己理解を進め、「個性・多様性」、自己と他者の存在の平等性について考えることができた。（全学年）
〇道徳の授業のまとめでは、自身が「人権」守るために行動したことを振り返り、人権意識の向上と行動力の向上を図った。（全学年）

＜特別活動＞
〇集団生活の中で、互いに励まし合い、信頼し合い、相互の向上を図る意識を高めた。（全学年）
〇卒業式に向けて【生徒会企画】

３月４日の「３年生を送る会」に向けて、感謝の心を伝えるために次のことに取り組んだ。

・新２・３年生０学期プロジェクト（１・２年生）

①卒業式の歌で先輩に涙を流させる。

１、２年各学年が学年合唱を披露し、３年生に感動を与えるべく練習に取り組んだ。また、合唱練習の中でお互いを尊重できる態度を養うように取り組んだ。

②３年生を送るムービーへの参画。

生徒会役員が中心となり、３年生の思い出と功績を振り返り感謝の気持ちを伝えるとともに、めざす先輩像について考えさせた。

・立つ鳥あとを残すプロジェクト（３年生）

①卒業式の歌で悔いを残さない。

②後輩に式で背中を見せる。

③後輩たちへのメッセージカード。

・先輩と呼ばれるにふさわしい人（好きな先輩の魅力を話そう）（１年生）

・最上級生と呼ばれるにふさわしい人（先輩の魅力を話そう）（２年生）

・卒業生と呼ばれるにふさわしい人（なりたい自分になる）（３年生）

＜総合的な学習の時間＞

〇体験的な学習や様々な人との関わりの中で、豊かな心情の育成を図った。取組後の感想では地域社会をより良くしていこうという感想が多く見られた。（全学年）

＜学校行事＞

〇スポーツフェスティバルや合唱コンクールを軸に「個性」を生かしつつ「調和」を生み出す取組を行った。取組後の生徒の感想には、「最初はみんながまとまらないことがあったが、弱い部分をカバーし協力していくことで、良い結果が出せた。」という感想が多く見られた。

②人権意識、協働する意識を高める活動の工夫

＜生徒指導・進路指導等＞

教育相談（年２回）、日記指導、通信を用いての啓発活動等、個に応じたきめ細かな指導を通じて、自らの将来に夢や希望が持てるように取り組んだ。（全学年）

＜縦割り活動＞

学年を交えた縦割り活動で、協働的活動やピアサポート活動を行い、他者を尊重する態度の育成を図った。（全学年）

〇スポーツフェスティバルでの生徒会企画の立案、実施

生徒会が中心となり、スポーツフェスティバルにおいて、生徒が支え合いながら取り組む競技を立案、実施した。

〇縦割り学活によるピアサポート活動の実施

同じ課題について生徒同士が話し合える機会を設定し、各生徒の成長を促した。

〇縦割りレクレーションの企画、実施

コミュニケーション活動を通じ、相手の気持ちを読み取ろうとする態度の育成を図った。

＜人権週間の取組＞
　人権週間を設定し、人権に関する校内放送や標語づくり等を通して、人権意識の高揚を図った。（全学年）
〇各学級の人権宣言
　　学級委員を中心に学級の人権宣言をおこない、掲示物を作成した。また、各学級の人権宣言を校内放送で発表した。
〇人権に関する標語づくり
　　生徒一人一人が人権に関する標語をつくり、各教室に掲示した。

＜訪問授業＞
・三島会館隣保館副館長が、本校を訪問し、同和問題の歴史的背景等の授業を実施した。
・敦賀警察署生活安全課職員が、本校を訪問し、インターネットによる人権侵害をテーマに授業を実施した。
・福井県弁護士会の弁護士が、本校を訪問し、いじめの未然防止をテーマに授業を実施した。

③教職員の指導力向上
＜校内＞
　授業の公開（随時）、人権意識向上のための校内研修（４月、８月、２月）を実施した。
＜校外＞
　先進校視察、研修講座等への積極的な参加を促した。
〇新採用教員人権研修…【同和（部落差別）問題】敦賀市教育委員会学校教育課主催（７月２３日、２名）
〇人権教育指導者研修会（１１月１９日、１名）
〇先進校視察（台東区立柏葉中学校、１月１６日、２名）

④家庭・地域における人権意識の向上
＜地域への啓発＞
　学校だより、学年だよりの発行、ホームページを活用した学校教育活動の広報を行い、人権意識の向上を促した。

＜講演会の実施＞
〇人権講演会
　　障害者の人権、社会参画に関しての講演会を開催した。（７月１１日、全学年）
〇親子人権教室
　　親子で参加する障がい者の人権に関する講演会を開催し、人権に関する理解と認識を深めた。（１１月２１日、第３学年生徒、保護者）

〇検証・評価・改善・普及

〇生徒の変容、保護者の意識について
　　本校生徒の実践前後のアンケートにおいて、自己有用感（「誰かの役に立っている」）が７７%から８０%に、自己肯定感（「自分にはよいところがあると思う」）が、８７%から９３%に上昇した。

また、生徒アンケートにおいて「相手への差別をしていない。」と回答した生徒の割合は９５%以上であった。保護者アンケートにおいても「お子さんは差別やいじめ・暴言・暴力をしていない。」と回答した割合も９７%以上であった。

しかしながら、「差別をしていない」が９５%以上とはいえ、心ない言葉により相手を傷つけたり、相手の立場や多様な価値観や考え方を認めなかったりする言動が全く見受けられないということではない。全ての生徒が「差別をしていない。」と答えられるよう、人権に関する知識をさらに深めさせるとともに、タイムリーに話題を提示し生徒に考えさせる場面を増やしていきたい。

さらに、今後は「人権を意識させる環境整備」についても取り組んでいく。学校生活の中で人権に関する掲示物等があることにより、常に人権について意識する環境を構築していく。

〇いじめ未然防止に関して

子供の人権問題として「いじめの未然防止」は重要な課題である。特に近年はＳＮＳでのトラブルが懸念されている。そのため、外部の講師を迎え、人権について考える機会をもつようにした。(「弁護士によるいじめ予防教室」、「敦賀警察署生活安全課職員によるインターネットでの人権侵害をテーマにした訪問授業」)。本校においてもＳＮＳ上での被害を相談してくる事案があるが、実践前に比べると相談件数が減ってきている。今後も専門家を招いての訪問授業を行い、相手が見えないＳＮＳだからこそ、守らなければならないルールについて継続的に学習していく。

〇関係事業所と連携

訪問事業や講演会では関係事業所と連携し取り組んだ。専門的立場から人権について説明してもらうことで、教育の質の向上を図ることができた。今後も、人権に関する問題について、専門家の立場から助言していただけるよう連携を図っていく。なお、今年度協力いただいた関係事業所については次のとおりである。

・「弁護士によるいじめ予防教室」（福井県教育委員会）
・「命の授業」（敦賀市保護司会）
・「ユニバーサルマナーセミナー」（敦賀市地域福祉課）
・「インターネットでの人権侵害」（敦賀警察署生活安全課）
・「同和問題をテーマにした訪問授業」（敦賀市三島会館隣保館）

〇地域や他校への普及、啓発

１１月のオープンスクールにおいて、「ユニバーサルマナーセミナー」を開催し、障がい者の人権に関する課題について、保護者が参加できる場を設定した。セミナー後の保護者の感想には、「なかなかこのような講話を聴ける機会がなかったので良かった。」、「障がい者の困り感に合わせた思いやりが必要と言うことがわかった。」という内容が見られた。今後も、保護者が参加できる機会を設定し、普及に努めていく。

また、いじめ問題に関しては、大人からの指導だけでなく、生徒自身がいじめについて考え、いじめを防ごうとする活動が必要と考える。さらに生徒によってはＳＮＳや地域クラブで他校生徒との交流があり、その中でトラブルが発生した事案もある。そのため、来年度は、本校だけでなく市内の中学校と連携し、生徒会を中心にいじめ問題について考える取組を行っていく予定である

５．人権教育にかかる年間指導計画

令和７年度人権教育年間計画【教科・領域のリンクを活かして】　　栗野中学校

［１年］

	学校行事	特活（学活の時間）	総合的な学習	教科	人権計画
4月	入学式	①　学級開き（クラスメイト名前覚え勝負）[1] ②　アイスブレイク（エンカウンターorネームバトル）[2] ③　自己紹介の工夫（私の好きな○○ベスト３）[1] ④　学級組織作り（委員会・係活動の意義）[2] ⑤　学級のルール定着指導（担任が許すこと・許さないこと）[1] ⑥　部活動を知ろう！（見学・知っている情報共有タイム）[1]	・学年レクレーションに向けて （準備・本番）	【英語】 多様な文化を認め合う❻	◆学級活動を中心に温かい人間関係の素地をつくる ❷ ◆道徳の時間に「友」について深く考えさせることで，より適切な人間関係のあり方について自身を振り返らせる ❷
5月	学年レクレーション スポーツフェスティバル	①　学習を通じたつながり（学習グループの組成と試行）[1]			◆スポーツフェスティバルを軸に「個性」を生かしつつ「調和」を生み出す体験をさせる ❷
6月	定期考査① 二州地区夏季大会	①　初めての中間考査への取り組み（中学校のテストマナー・テスト期間の過ごし方・学習計画表をみんなで書いてみよう！）[1] ②　悩みの調査（前半：本当に安心できる空間体験）[1]	・道徳学習「学ぶ目的」	【道徳】 インターネットによる人権侵害（出前授業）❽	◆集団の中で自身が認められる経験や，他者を認める経験をさせることで，偏見を持たない心を育てる ❶❷❸ ◆夏休みに人権侵害が起こりやすいSNSの使い方について学活や集会で確認し，適切な使い方を考えさせる ❽
7月	県夏季大会 教育懇談会	①　夏休みにいい意味のワクワクを！（未来日記『こんな夏休みになった（学習編・部活編・家族編・ヒミツ編）』８月31日の思い出日記を予想して書く→掲示）[1] ②　夏の読書体験の伏線（ヨムヨム貯金の準備と称して図書室で本を吟味し全員が数冊借りる→最初の１冊をヨムヨム貯金に書き込む）[1] ③　夏休みのしおり学習（班で大切な部分を予想し意識→担任指導）[1]	・職業調べ	【国語】 さんちき ・多面的な見方❹ オオカミを見る目 ・多面的な見方❹ 【道徳】 人権講演会❶	◆大会参加や地域行事への参画等を通して，年齢や立場にとらわれず，他者と公平・公正に関わる体験をさせる ❶❷❸❹❺❻❼❽
8月	部活新チーム 補習（弱点補強）	①　夏休みの思い出トーク主たは日記制作[1] ②　夏休みに調べた身近な人職業調べ　発表会の準備	・職業インタビュー		
9月		①　職業調べ　発表会の準備，発表会本番 ②　福井の先人100人（あなたランキングNo.1はこの人！レポート）[1]	・職業調べ　発表会 ふるさと学習		
10月	新人大会 合唱コンクール 定期考査②	①　校外学習事前学習[3] ②　校外学習レポート（各クラスのベスト版を掲示）[2] ③　より良い授業に向けた話し合い（学級委員会とリンクで）[1] ④　合唱リーダー決めと目標決め[1] ⑤　練習の問題点と改善の話し合い[1] ⑥　合唱コンクール本番と振り返り[1]	・校外学習準備（リーダー会） ・合唱コンクールをとおした（チームワーク強化）	【英語】 オーストラリアの兄 ・国際理解❻	◆校外学習や合唱コンクールを軸に「個性」を生かしつつ「調和」を生み出す体験をさせる ❷ ◆道徳で「個性・多様性」についてじっくり考えさせる ❶❷❸❹❺❻❼
11月	校外学習	①　学校生活の振り返り（学校生活「いいね！」チェック）[1]	・校外学習本番		
12月	人権週間 校内研究会 教育懇談会	①　人権週間（○年○組の人権宣言：掲示物作成）[1] ②　職業調べⅠ（７つのジャンルで仕事を分析！レポート）[1] ③　職業調べⅡ（身近な人にシゴトインタビュー！：冬休み課題） ④　中学生の心とからだ：性教育（ホンネトーク男塾・女塾）[1]	・校外学習発表会の準備と本番	【美術】 アジアの多様な美術 ・国際理解・他者理解❻	◆人権週間を通して，校内に「人権意識」を高める場面や環境を創造する ❶❷❸❹❺❻❼ ◆道徳で「いじめ」についてじっくりと考えさせる ❶❷❸❹
1月		①　道徳クラブⅠ（自分は何に関心があるだろう？）[1] ②　道徳クラブⅡ（職業適性調査）[1] ③　道徳クラブⅢ（適性の判定を見て思うこと・考えること）[1]	・コンテストを通した学級の結集力向上	【音楽】 アジアの諸民族の音楽 ・国際理解❻ 【国語】 矛盾 ・他者理解の素地❹	◆道徳でエゴグラムを用いて自己理解を進める中で，自己と他者の存在の平等性について考えさせる ❷❸❹
2月	定期考査③	①　２年生ゼロ学期プロジェクト（卒業式の歌で先輩に涙を流させる）[1] ②　２年生ゼロ学期プロジェクト（３年生を送るムービーへの参画）[1] ③　社会体験活動希望調査[1] ④　１年間の道徳の振り返り[1]	・キャリアパスポート ・社会体験希望調査	【保健体育】 多様な性の在り方について❶	◆道徳の主とめの際に，自身が「人権」を守るために行動したことを振り返らせる ❶❷❸❹❺❻❼❽❾
3月	卒業式	①　先輩と呼ばれるにふさわしい人（好きな先輩の魅力を話そう）[1] ②　学級の仲間との良き別れ（クラスメイトのステキなとこ発見！）[1] ③　春休みの計画（サクラとともにあなたが咲かせること）[1]	・社会体験準備		◆先輩を送り出し，後輩を迎える中で，適切な距離感のある人間関係を学ばせる ❷

それぞれの時期と場面で「人権への視点」を持って，これらの学習や活動をタイムリーに実践していくことで，本校における「人権教育の推進」に迫ろうと考えます。

❶女性　❷子ども　❸高齢者　❹障がい者　❺同和（部落差別）問題　❻外国人　❼インターネットによる人権侵害　❽拉致問題　❾LGBTQ
❿その他様々な人権（アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者および元患者、新型コロナウイルス感染症等、刑を終えて出所した人・犯罪被害者等）

令和７年度人権教育年間計画【教科・領域のリンクを活かして】　　栗野中学校

［２年］

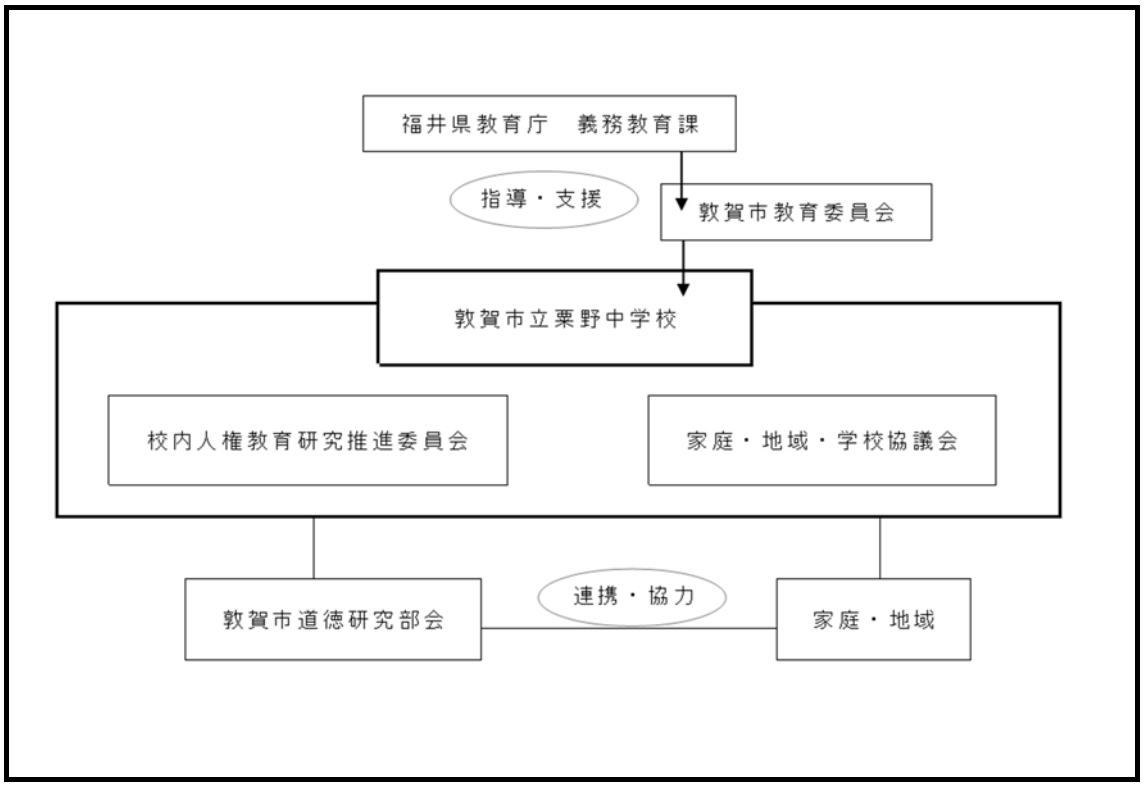
	学校行事	時活（学活の時間）	総合的な学習	教科	人権計画
4月	入学式	① 学級開き（クラスメイト名前覚え勝負）[1] ② アイスブレイク（エンカウンターorネームバトル）[2] ③ 自己紹介の工夫（私の好きな○○ベスト３）[1] ④ 学級組織作り（委員会・係活動の意義）[2] ⑤ 学級のルール定着指導（担任が許すこと・許さないこと）[1]	春の校外学習に向けて ・学年リーダー会 ・校外学習リーダー会 ・校外学習訪問案検討（リーダー会） ・訪問地調べ ・校外学習本番	【社会】歴史 室町文化とその広がり ・河原者たちの優れた技術❹ 【英語】 多様な文化を認め合う❻	◆学級活動を中心に温かい人間関係の素地をつくる ❷ ◆道徳の時間に「友」について深く考えさせることで，より適切な人間関係のあり方について自身を振り返らせる ❷ ◆スポーツフェスティバルを軸に「個性」を生かしつつ「調和」を生み出す体験をさせる ❷
5月	校外学習 スポーツフェスティバル	① 学習を通じたつながり（学習グループの結成と試行）[1] ② 校外学習事前学習[3] ③ 校外学習レポート（各クラスのベスト版をIKOSSAで展示）[2]			
6月	定期考査① 二州地区夏季大会	① 充実した中間考査への取り組み（中学校のテストマナー・テスト期間の過ごし方・学習計画表を活用する方法を共有しよう！）[1] ② 悩みの調査（前半：本当に安心できる空間づくり）[1]	秋の校外学習に向けて ・校外学習リーダー会 ・訪問地検討 ・訪問地調べ	【社会】歴史 さまざまな身分と暮らし ・差別された人々❺ 【国語】 字のないハガキ ・戦争の人権侵害❿ 【道徳】インターネットによる人権侵害（出前授業）❼	◆集団の中で自身が認められる経験や，他者を認める経験をさせることで，偏見を持たない心を育てる ❶❷❿ ◆夏休みに人権侵害が起こりやすいSNSの使い方について学活や集会で確認し，適切な使い方を考えさせる ❼
7月	県夏季大会 教育懇談会	① 夏休みにいい意味のワクワクを！（未来日記『こんな夏休みになった（学習編・部活編・家族編・ヒミツ編）』8月31日の思い出日記を予想して書く→掲示）[1] ② 夏の読書体験の伏線（ヨムヨム貯金の準備と称して図書室で本を吟味し全員が数冊借りる→最初の１冊をヨムヨム貯金に書き込む[1] ③ 夏休みのしおり学習（家で大切な部分を予想し赤線→担任指導）[1]	・部活のリーダーとしてできること、やるべきこと	【道徳】人権講演会❶	◆大会や地域行事への参画等を通して、年齢や立場にとらわれず，他者と公平・公正に関わる体験をさせる ❶❷❸❹❺❻❿
8月	部活新チーム 補習（弱点補強）	① 夏休みの思い出トークまたは日記制作[1]	・ふるさと学習		
9月		① 福井の先人100人（あなたランキングNo.1はこの人！レポート）[1] ② 充実した考査への取り組み（テスト期間の過ごし方・学習計画表を活用する方法を共有しよう！）[1]			
10月	新人大会 合唱コンクール 定期考査②	① 校外学習事前学習[3] ② 校外学習レポート（各クラスのベスト版をIKOSSAで展示）[2] ③ より良い授業に向けた話し合い（学級委員会とリンクで）[1] ④ 合唱リーダー決めと目標決め[1] ⑤ 練習の問題点と改善の話し合い[1] ⑥ 合唱コンクール本番と振り返り[1]	・秋の校外学習準備 ・校外学習本番 ・合唱コンクールをとおした（チームワーク強化）	【社会】歴史 外国船の出現と天保の改革 ・抜染一揆❹ アイヌ文化とその継承❿ フランス革命 ・人権宣言❿ 【道徳】 同和問題をテーマにした出前授業❻ いじめ予防授業❷	◆校外学習や合唱コンクールを軸に「個性」を生かしつつ「調和」を生み出す体験をさせる❷ ◆道徳で「個性・多様性」についてじっくり考えさせる ❶❷❸❹❺❻❿
11月	校外学習	① 学校生活の振り返り（学校生活「いいね！」チェック）[1]			
12月	人権週間 校内研究会 教育懇談会	① 人権週間（○年○組の人権宣言：掲示物作成）[1] ② 連絡調べⅠ（福井県の高校を分析！レポート）[1] ③ 連絡調べⅡ（身近な人に高校生活インタビュー！：冬休み課題） ④ 中学生の心とからだ：性教育（ホンネトーク男塾・女塾）[1]	・学校調べ（図書室） ・身近な人への高校インタビュー（冬課題）	【英語】 Universal Design ・障害に負けない心や強い意志❶	◆人権週間を通して，校内に「人権意識」を高める場面や環境を創造する ❷❸❹❺❻❼❿ ◆道徳で「いじめ」についてじっくりと考えさせる ❷❸❹❿
1月		① 高校の「学科」にこだわる（どんな学科があり何を学ぶのか）[1] ② 高校の「生活」にこだわる（どんな日々を過ごすか，行事は）[1] ③ 課題発表会への参加（高校の空気に触れる）[1]	・就職について考える ・進学について考える	【社会】歴史 新政府の成立 ・身分制度の廃止❺	◆道徳でエゴグラムを用いて自己理解を進める中で，自己と他者の存在の平等性について考えさせる ❷❸❹
2月	定期考査③	① ３年生ﾋﾞﾛ学期プロジェクト（卒業式の歌で先輩に涙を流させる）[1] ② ３年生ゼロ学期プロジェクト（３年生を送るムービーへの参画）[1] ③ 修学旅行希望調査[1] ④ １年間の道徳の振り返り[1]	・修学旅行希望調査 ・課題発表会等の高校ｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙへの参加	【音楽】 世界の諸民族の音楽 ・国際理解と他者理解❻	◆道徳のまとめの際に，自身が「人権」を守るために行動したことを振り返らせる ❶❷❸❹❺❻❼❿
3月	卒業式	① 最上級生と呼ばれるにふさわしい人（先輩の魅力を話そう）[1] ② 学級の仲間との良き別れ（クラスメイトのステキなとこ発見）[1] ③ 春休みの計画（サクラとともにあなたが咲かせること）[1]	・修学旅行準備		◆先輩を送り出し，後輩を迎える中で，適切な距離感のある人間関係を学ばせる ❷

それぞれの時期と場面で「人権への視点」を持って，これらの学習や活動をタイムリーに実践していくことで，本校における「人権教育の推進」に迫ろうと考えます。

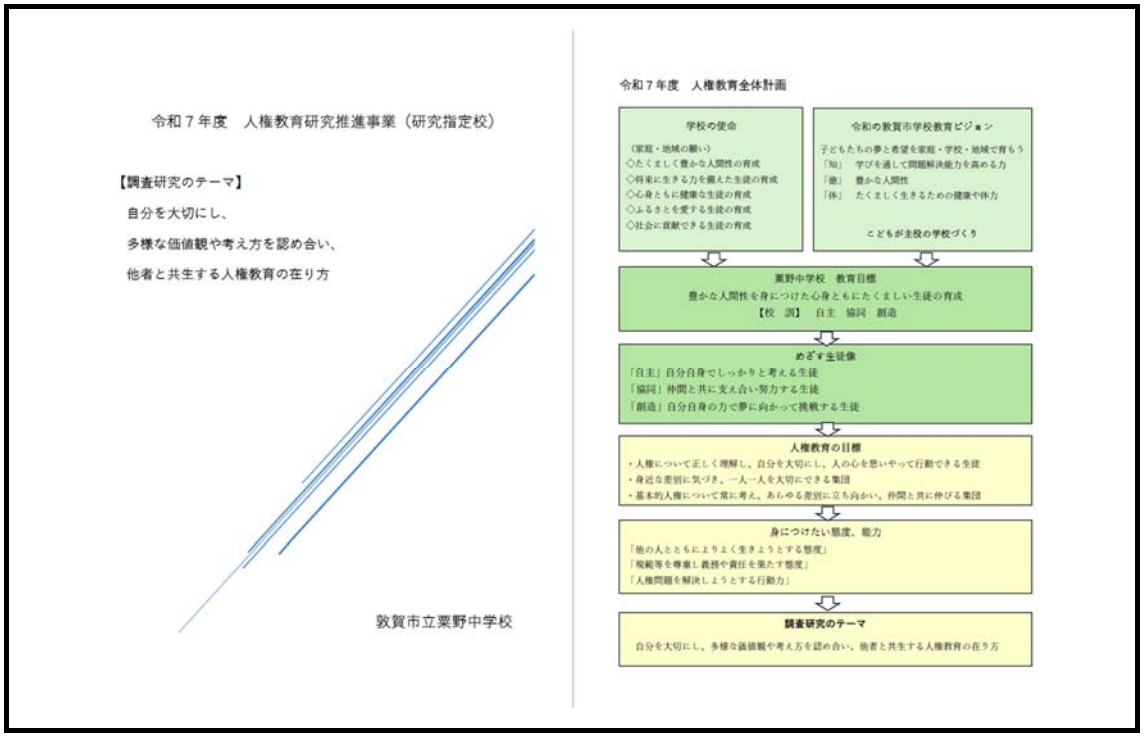
❶女性　❷子ども　❸高齢者　❹障がい者　❺同和（部落差別）問題　❻外国人　❼インターネットによる人権侵害　❽拉致問題　❾LGBTQ

❿その他様々な人権（アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者および元患者、新型コロナウイルス感染症等、刑を終えて出所した人・犯罪被害者等）

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）



７．関連資料



令和７年度　人権教育研究推進事業（研究指定校）

【調査研究のテーマ】

自分を大切にし、

多様な価値観や考え方を認め合い、

他者と共生する人権教育の在り方

敦賀市立粟野中学校

令和７年度　人権教育全体計画

学校の使命

（家庭・地域の願い）
◇たくましく豊かな人間性の育成
◇将来に生きる力を備えた生徒の育成
◇心身ともに健康な生徒の育成
◇ふるさとを愛する生徒の育成
◇社会に貢献できる生徒の育成

令和の敦賀市学校教育ビジョン

子どもたちの夢と希望を家庭・学校・地域で育もう
「知」　学びを通して問題解決能力を高める力
「徳」　豊かな人間性
「体」　たくましく生きるための健康や体力

こどもが主役の学校づくり

粟野中学校　教育目標

豊かな人間性を身につけた心身ともにたくましい生徒の育成

【校　訓】　自主　協同　創造

めざす生徒像

「自主」自分自身でしっかりと考える生徒
「協同」仲間と共に支え合い努力する生徒
「創造」自分自身の力で夢に向かって挑戦する生徒

人権教育の目標

・人権について正しく理解し、自分を大切にし、人の心を思いやって行動できる生徒
・身近な差別に気づき、一人一人を大切にできる集団
・基本的人権について常に考え、あらゆる差別に立ち向かい、仲間と共に伸びる集団

身につけたい態度、能力

「他の人とともによりよく生きようとする態度」
「規範等を尊重し義務や責任を果たす態度」
「人権問題を解決しようとする行動力」

調査研究のテーマ

自分を大切にし、多様な価値観や考え方を認め合い、他者と共生する人権教育の在り方

研究の構想

本校の人権教育の目標

・人権について正しく理解し、自分を大切にし、人の心を思いやって行動できる生徒
・身近な差別に気づき、一人一人を大切にできる集団
・基本的人権について常に考え、あらゆる差別に立ち向かい、仲間と共に伸びる集団

調査研究のテーマ

自分を大切にし、多様な価値観や考え方を認め合い、
他者と共生する人権教育の在り方

「他の人とともによりよく生きようとする態度」、「規範等を尊重し義務や責任を果たす態度」、「人権問題を解決しようとする行動力」を身につけられるようにしたい。

そのため、「授業での取組」、「人権意識、協働意識を高める活動」、「教職員の指導力向上」、「家庭・地域を含めた取組」を柱として、「自分を大切にし、多様な価値観や考え方を認め合い、他者と共生する人権教育」の充実を図っていく。

調査研究の内容

①自己有用感や自己肯定感を高め、自他を尊重する授業の展開

仮説：自分のよさや相手のよさを知り、「自分が認められている」、「役に立っている」ことに気づく活動を展開することで、自己有用感や自己肯定感が高まり、自他を尊重する気持ちや態度を養うことができるだろう。

②人権意識、協働意識を高める活動の工夫

仮説：人権に関する講演を開催することや、仲間と協働して探究的な活動や体験をする等を通して、人権意識や協働意識を高め、生きた知識や技能を身に付けることができるだろう。

③教職員の指導力向上

仮説：教職員が人権に対する理解を深めることで指導力の向上をはかることができるだろう。また、自らが率先して範を示すことで、生徒の人権意識を向上させる一助となるだろう。

④家庭・地域における人権意識の向上

仮説：保護者や地域の方に人権に関する授業を公開することや、親子で人権に関する講演会に参加すること等を通して、人権に関する理解と認識を深めることができれば、家庭・地域における人権意識が高まるだろう。

検証・評価

・生徒による「授業振り返り」、「生活アンケート」、生徒や保護者による「学校評価」を定期的に実施し、人権意識の変容を把握、評価し、次の活動に生かす。
・地域、関係事業所と連携した体験活動については、活動後に地域の方から意見を聴き、効果的な連携に向けた改善を続ける。
・公開授業等の取組後にアンケートを行い、意見から効果を検証し、授業改善に生かす。
・オープンスクールや講演会等により、人権教育の取組を発信し、地域や他校への普及、啓発を図る。

取組

①自己有用感や自己肯定感を高め、自他を尊重する授業の展開

＜教科＞
各教科の特性を生かしながら科学的・合理的な見方・考え方を育成する。

＜道徳＞
思いやりと協働を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな心を育てる。
「個性・多様性」についてじっくり考えさせる。
道徳のまとめの際に、自身が「人権」守らせるために行動したことを振り返る。


道徳で使用したエゴグラム

＜特別活動＞
集団生活の中で、互いに励まし合い、信頼し合い、相互の向上を図る意識を高める。

＜総合的な学習の時間＞
体験的な学習や様々な人との関わりの中で、豊かな心情を養う。


敦賀市役所観光誘客課訪問授業


神楽商店街　訪問授業

＜学校行事＞
スポーツフェスティバルや合唱コンクールを軸に「個性」を生かしつつ、「調和」を生み出す取組を行う。


スポーツフェスティバル


合唱コンクールの練習風景

②人権意識、協働意識を高める活動の工夫

＜生徒指導・進路指導等＞
教育相談、日記指導、通信を用いての啓発活動等、個に応じたきめ細かな指導を通じて、自らの将来に夢や希望が持てるようにする。

＜縦割り活動＞
学年を交えた縦割り活動で、協働的活動やピアサポート活動を行い、他者を尊重する態度を育てる。

○スポーツフェスティバルでの生徒会企画の立案、実施
生徒会が中心となり、スポーツフェスティバルにおいて、生徒が支え合いながら取り組む競技を立案、実施する。

○縦割り学活によるピアサポート活動の実施
同じ課題について生徒同士が話し合える機会を設定し、各生徒の成長を支援する。


ピアサポート

○縦割りレクレーションの企画、実施
コミュニケーション活動を通じ、相手の気持ちを読み取ろうとする態度を育成する。

＜人権意識を高める環境整備＞
人権意識を高めるメッセージ等を校内に掲示し、常に人権を意識する環境を整備する。

＜人権週間の取組＞
人権週間を設定し、人権に関する校内放送や標語づくり等を通して、人権意識の高揚を図る。

○各学級の人権宣言
学級委員を中心に学級の人権宣言を行い、掲示物作成する。また、各学級の人権宣言を校内放送で発表する。


各学級の人権宣言

○人権に関する標語づくり
生徒一人一人が人権に関する標語をつくり、各教室に掲示する。

＜訪問授業＞
三島会館副館長による同和問題の歴史的背景等の授業を実施する。

＜講演会の実施＞
人権に関する講演会を開催し、人権に関する理解と認識を深める。


同和問題をテーマにした訪問授業


弁護士によるいじめ予防教室

③教職員の指導力向上

＜校内＞
授業の公開、校内研究会研究授業（道徳）、人権意識向上のための校内研修お実施する。

＜校外＞
先進校視察　（台東区立柏葉中学校）
新採用教員人権研修…「同和（部落差別）問題」
敦賀市人権研修会…「人権に関する講演」

④家庭・地域における人権意識の向上

＜保護者への啓発＞
親子で人権に関する講演会に参加し、人権に関する理解と認識を深める。

＜地域への啓発＞
学校だより、学年だよりの発行、ホームページを活用した学校教育活動の広報を行い、人権意識の向上を促す。


ユニバーサルマナーセミナー

研究の成果と課題

＜成果＞
○生徒アンケートでの項目「差別やいじめ・暴言・暴力をしていない」において、昨年度９４．２％から今年度９５．４％へ、項目「自分は誰かの役に立っていると思う」において、昨年度７７．５％から今年度７９．０％へ向上が見られた。
○人権に関する講演会に参加した保護者の感想から、人権に関する知識を得られたという感想や、今後も開催してほしいという意見があった。

＜課題＞
人権に関する知識理解が深まり、人権課題に対する意識は高まってきた。しかし、生徒の普段の学校生活で人権感覚を実際の行為に結びつけて、自分や他者を守るための行動ができていない場面が見られることがある。人権問題は日常生活の中に存在しており、学級などにおける課題を解決することが自分や他者の人権を尊重することになる。学校生活の環境を整え、日常的に行う取組を継続していく必要がある。